和光大学

和光大学

地域連携研究センター 2023年度 報告集

第3号

ANNUAL ACTIVITY REPORT OF WAKO CENTER FOR COMMUNITY OUTREACH

和光大学

和光大学 地域連携研究センター

〒195-8585　東京都町田市金井ヶ丘5-1-1

〈TEL〉044-989-7478　〈E-mail〉renkei@wako.ac.jp

〈URL〉https://www.wako.ac.jp/cooperation/research-center.html

センター長
Message

報告集に寄せて

地域連携研究センター長
野中 浩一

本報告集は、前任の倉方センター長が担われていた2023年度の活動をとりまとめた冊子です。和光大学に本センターが創設されてもう10年近く、それが包括する活動は、社会連携研究プロジェクトと地域応援プロジェクトという枠組みで行われるもののほか、複数のフォーラムの活動群まで、多様な広がりをもっています。毎年とぎれることなくこうして報告集にまとめることができていることは、それを担う教員たちと、それを支える学生たちの力があってこそであり、実質のある活動がつづけられていることを嬉しく思っています。

私立大学である和光大学の存在意義はどこにあるか？　教育機関としての視点に立てば、ここに記されている活動は、社会に巣立つ前の学生たちが自ら楽しみながらも、地域という足もとのみなさんとの交流のなかで、社会すなわち人間関係をどのように構築したらいいのかを体感することにあるかもしれません。これからも足もとを大事にする有為な人材が多く巣立ってくれると信じています。

地域のみなさまには、今後とも、地域に生きる和光大学を温かい目で見守っていただけますよう、どうぞよろしくお願いいたします。

目 次

…社会連携研究プロジェクト　…地域応援プロジェクト

・現代人間学部 心理教育学科 髙坂康雅 教授 …… 2ページ
・表現学部 芸術学科 半田滋男 教授 …… 3ページ
・経済経営学部 経営学科 小林猛久 教授 …… 4ページ
・現代人間学部 心理教育学科 後藤紀子 准教授 …… 5ページ
・現代人間学部 人間科学科 大橋さつき 教授 …… 6ページ
・表現学部 総合文化学科 角尾宣信 講師 …… 7ページ
・経済経営学部 経済学科 加藤巌 教授 …… 8ページ
・経済経営学部 経営学科 平井宏典 教授 …… 9ページ
・社会連携フォーラム（大学開放、ジェンダー、地域・流域共生）の紹介 …… 10・11ページ
・さまざまな地域連携活動 …… 12・13ページ

＊掲載している情報は、2023年度のものです。

◆地域連携研究センターとは

和光大学は、開学当時から開かれた大学として、教職員・学生が一体となって地域社会と連携した活動を行ってきました。こうした活動は社会的にも高い評価を得ており、地域からのニーズも多くあります。地域連携研究センター（以下、センター）は、これまでの実績を基盤として、社会貢献・教育・研究が一体となった活動を一層推進していくための機関として2016年4月1日に開設されました。

センターは、学外からワン・ストップでアクセスできる窓口を設けており、地方自治体や民間企業、NPO等各種団体並びに地域住民など、地域を構成する方々からの要望を大学の教育研究活動につなぐ役割を果たしています。また、生涯学習や文化交流、街作りなどで、地域に貢献している本学の学生、教職員たちが継続的に活動できるよう、積極的にバックアップを行っています。

センターは、センター会議と社会連携フォーラムおよびプロジェクトにより構成され、それぞれの役割に応じた活動を展開しています。

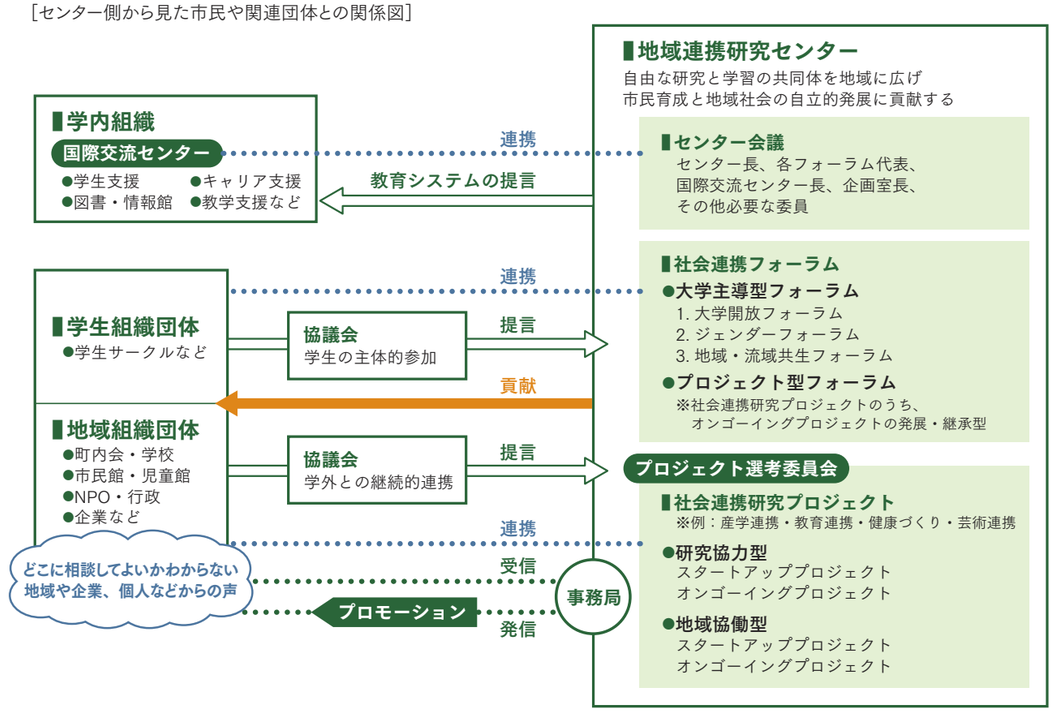
◆社会連携研究プロジェクト・地域応援プロジェクトについて

社会連携研究プロジェクトは、本学の学術的な蓄積や教職員・学生の力を活用して、地域と連携・協働しながら、地域が抱える課題やニーズに対して、その解決や新たな方向性を模索するために取り組むプロジェクトです。本学の専任教員が、個人もしくは共同で行う調査・研究を対象としており、「その調査・研究結果が、和光大学が立地する周辺地域及び研究対象の地域に還元され、ひいては、それらの地域の発展や活性化に寄与していくものであること」が認められる場合、大学として当該研究に対して資金的援助を行います。

地域応援プロジェクトは、本学教員による研究活動を主体とする社会連携研究プロジェクトと異なり、地域が抱える課題やニーズに対して、その解決や新たな方向性を模索するため、単発もしくは連続で開催される講演やセミナー、ワークショップ等、本学教職員・学生が主催する催し物に対して、大学として資金的援助を行う制度です。

地域連携研究センター インナーイメージ

［センター側から見た市民や関連団体との関係図］



01

大学を中心とした地域の不登校支援ネットワークの構築

現代人間学部
心理教育学科
教授

代表教員
髙坂 康雅

研究分野

青年心理学
（特に青年の自我発達、恋愛、友人関係）

プロジェクトの概要

本プロジェクトでは、大学を中心として、地域にいる不登校の子ども、不登校の子どもを抱える親・家庭、不登校の子どもの支援を行う者（教師、支援者など）、不登校など困難を抱える子どもの支援を行うことを志望している学生などが相互につながり、不登校に対する情報交流とより良い支援を行うための連携・協力を行うためのネットワークを構築することを目的としている。

2023年度は、主に以下の3つの活動を行った。

①町田市不登校の親の会「いぐぷらす」を4回開催し、不登校の子をもつ親、かつて子どもが不登校であった親の交流・情報共有の場を設けた。

②町田市不登校を学ぶ会「いぐあるふぁ」を開催した。今回は「通信制高校ってどんなところ?」というテーマで、通信制高校及び技能連携校の教員に通信制高校の概要について講義を行ってもらった。また、通信制高校出身の大学生1名に、通信制高校での学びや生活について実体験を話してもらった。

③町田市内でフリースクールや不登校の親の会などを主催している有志が集まり、「まちだ多様な学び場居場所ネットワーク」を設立し、「まちだ多様な学び場居場所MAP」を作成・配布した。

研究成果の概要

①町田市不登校の親の会「いぐぷらす」

2023年4月22日(土)、7月22日(土)、10月28日(土)、2024年1月20日(土)の4回開催した。各回10名程度の不登校の子をもつ保護者あるいはかつて子どもが不登校であった保護者が参加をし、活発な交流・情報交換の場となった。

②町田市不登校を学ぶ会「いぐあるふぁ」

2023年10月28日(土)に開催した。「通信制高校ってどんなところ?」をテーマに、通信制高校・技能連携校の教員による講義を行った。また、通信制高校出身の大学生1名から通信制高校での学びや生活について報告があった。十数名が参加し、盛会に終わった。

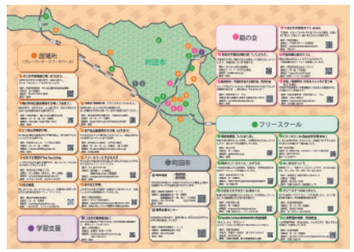
③「まちだ多様な学び場居場所ネットワーク」の設立及び「まちだ多様な学び場居場所MAP」の作成

2023年3月24日(金)に「まちだ多様な学び場居場所ネットワーク」の立ち上げ集会を開催した。その後、発起人（広田悠大氏）、コーディネーター（大野理加氏）、髙坂（顧問として）の3名が中心となり、町田市内のフリースクール、不登校の親の会、プレーパークなどと連絡・連携のもと、「まちだ多様な学び場居場所MAP」作成を進めた。MAPのデザインについては、本学芸術学科の木村史紅教授及び同学科2年次学生の協力を得て行われた。2024年3月24日(日)にお披露目会を行うとともに、町田市内の関係各所等で配布・設置を行った。

このMAPは、フリースクールや不登校の親の会などの情報を求めている保護者の情報収集の負担を減らすだけでなく、学校の教師や福祉等の支援者が地域資源を知る機会となった。反響が大きく、その必要性の高さがうかがわれる。今後は2025年度版作成に向けて内容の充実等を図っていくとともに、MAPの存在をいかに周知していくかが課題となる。

▲まちだ多様な学び場居場所ネットワークHP

▲まちだ多様な学び場居場所MAP



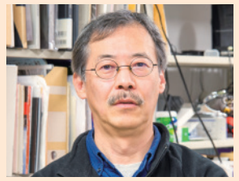
まちだ多様な学び場居場所MAP

02

和光大学と地域社会におけるアート

表現学部
芸術学科
教授

代表教員
半田 滋男



研究分野

現代美術
美術館学

プロジェクト所属メンバー

●堂前雅史（人間科学科 教授）
●木村史紅（芸術学科 教授）
●倉方雅行（芸術学科 教授）
●小林猛久（経営学科 教授）
●平井宏典（経営学科 教授）

プロジェクトの概要

2015年に始まった、和光大学学生によるアートプロジェクト「サトヤマアートサンポ」は黒川地域を拠点に6年間続けられた。地域住民の評判も良く、学生の作品を毎年、田んぼや竹林に展示することが出来た。学生も日々努力をし、力作を展示し、学生自身の外界に向けた表現活動を意識させる教育機会にもなってきた。

2019年からは場所を大学のある岡上地域に移し、コロナ期の縮小体制を経たが、2022年度はさらに岡上町内会と営農団地管理組合、セレサ川崎農業協同組合等の協力も得られ、規模を拡大して開催することができた。2023年度にはスタンプラリー、コンサートの開催、心理教育学科子ども教育専修の協力を得て地域の小学生対象のワークショップを開催するなど、企画内容を更に充実させ、より大学・学生・地域住民・行政にも収穫が得られ地域に根ざしたプロジェクトとした。

研究成果の概要

サトヤマアートサンポin岡上
作品展示期間：2023年11月3日（金・祝）～19日（日）

活動成果は展示自体によって地域に還元することにある。

前回に引続き、今回も活動を地域全体、ことに岡上を特徴づける営農団地に拡大し、全11作品を展示した。作品を観賞しながら地域を回遊的に散策することで、単なるアートイベントではなく、気候の移ろいや生態にも親しむことが出来るイベントとなった。

展示期間には、従来からお世話になっている地域の住民以外、従来付合いのなかった地権者のかたがた、作業にいそしむ住民、毎朝決った時刻に散歩する住民、さらに地域外から岡上の風景を好んで散歩に訪れる人々などと会話を交したりする機会にめぐまれ、さまざまな見解を得ることができた。

また、過年度にはなかった新規な試みとして、コンサート開催、ワークショップ開催があげられる。前者は、本学卒業生で世界的アーティスト 山本和智氏の出演を得たが、瞬く間に満席となり、近郊農地の中にある温室内でのコンサートという異例の状況は、来訪者に喜ばれた。また、後者も多くの参加者を集め、地域の教育に貢献するという新たな活動意義を加えることになった。

具体的な成果は視覚芸術=視覚によるものであるので、年度末に刊行・配布した記録集『サトヤマアートサンポ　2023 記録集』に記載されている。記録集は、関係者、関係機関に配布する他、近辺では麻生市民館岡上分館、本学図書・情報館でも公開している。

「岡上の繭について1」
和光大学芸術学科　ヴィジュアルアートゼミナール（橋本光、原島萌）
インスタレーション/紙、LED
展示場所：岡上営農団地集出荷場

「岡上の繭について2」
和光大学芸術学科　ヴィジュアルアートゼミナール（川端夢生、日暮美月）
インスタレーション/竹、紙、布
展示場所：岡上梨子ノ木特別緑地保全地区

イベント：「カラフルアートパーティー　まぜて　つくって　かけて　とばして」
2023年11月3日(金・祝)開催
指導:中村仁美（和光大学 心理教育学科 講師）

ライブイベント:「あんた…まだ山本和智なんて聞いてるの……?」
2023年11月11日(土)開催　岡上営農団地ガラスハウス
出演：パレイドリアン　山本和智

03

「地域デザイン」を基盤とした、次世代のための異質力育成プログラムの開発

経済経営学部
経営学科
教授

代表教員
小林 猛久

研究分野

ビジネスコミュニケーション
比較地域文化、ICT

プロジェクト所属メンバー

●倉方雅行（芸術学科 教授）
●堂前雅史（人間科学科 教授）
●岩本陽児（人間科学科 教授）
●山田　貢（共同研究員）

プロジェクトの概要

これまでの8年間の成果として、2015年の共通教養科目「地域デザイン」新設、地域の農業生産法人との連携による社会と教育現場が融合した人材育成システムの構築や地域活性化へ貢献するシステムの構築、地域の特産品である禅寺丸柿を使った果実酒や万福寺人参を使ったエール（発泡酒）といった新商品の開発・生産・販売といった実体験型学習の実現などをすることにより、学生の学習意欲の向上や地域経済の活性化の有効性を大きく示すとともに、結果的にその経験から地域企業に就職した学生もあり、地域に若者を根付かせる事例ともなった。

このように、事業の成果として地域活性化を実現するためには、地域に若者が定住し経済的に安定した生活を送ることができるシステムが必要となっている。しかし、単独の授業プログラムではその規模に限界があり、地域への影響力もそれほど大きくすることはできない。

そこで、本事業テーマとして設定した「地域デザインを基盤とした、次世代のための異質力育成プログラムの開発」は、和光大学における現代人間学部・表現学部・経済経営学部の全3学部の学びのコアであるとともに本学の強みとなる「異質力で輝く」人材育成の実践的研究をベースとして、地域の多様な人々と連携活動を希望する全学生やあらゆる授業・課外活動と連携が可能となる情報共有を実践してきた。今後も、本学の学生や教職員との連携により地域活性化を実現したいという企業や市民活動団体、各種行政機関との連携プロジェクト創出と運営やその評価を行うシステムを新たに構築して、組織的かつ継続的に地域活性化を働きかけるものである。

研究成果の概要

これまでの本研究の取り組みにより、地域産業である農業の6次産業化への貢献、関連産業への学生の就職、履修者の増大などの具体的な成果を残すことができた。特に、JA セレサ川崎セレサモス麻生店では、2017年7月より岡上エールを常設販売して頂いているが、継続的に売り上げがあり、「和光大学と地域の企業が共同して地元農産品を活用した商品の開発・販売を実現していることは地域経済の活性化に大いに役立つ。今後の量産化や多品種化を待っている。」と大きな期待を寄せてくれている。また、昨年度から引き続き本年度も、和光大学生協において、柿のドライフルーツの委託販売を継続している。

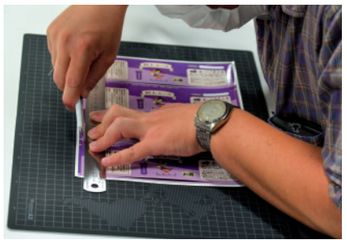
さらに、本活動の成果を踏まえて、2019年度からスタートした、岡上「寺子屋おかがみ」事業（麻生区の取り組みとして、地元町内会やNPOなどが運営主体となって岡上小学校の児童の学習支援や体験活動の実施を行う事業）の体験活動の支援が活発化し、SDGsをテーマとしたグリーンツーリズムとしての体験教室も根付いてきた。さらに、本年度で2年目となった、和光小学校（世田谷）の稲作支援は、和光小学校の児童を始め保護者の皆さんから、今後も継続して連携を依頼したいというご好評を頂き、2024年度の実施も確定した。

また、川崎市と企業応援センターかわさきによる障がい者雇用支援についても本格的な共同作業として、全9回実施し、参加者数のべ35名を超えるなどの実績を残した。畑でのサツマイモ収穫、岡上エールのラベル切り取り、コメの袋詰めなど、実際に販売される商品の一部を担当する作業に従事することで、「達成感や緊張感を感じた」「学生との共同作業がうまくできるように身だしなみや受け答えがうまくできるように気を配った」などの前向きな感想を多数得ることができた。学生にとっても多様な人々と共同作業することで、人の得手不得手に対応して業務を遂行する難しさや重要性を体験できたことは貴重な学びとなった。

今後も、コロナ禍の対策を徹底しながら、地域の小学生の支援を拡大するとともに、授業を基盤とした地域連携・人材育成プロジェクトを発展させ、全学的なシステムとして構築し、それを恒常化させることは、和光大学の地域貢献として大いに価値ある取り組みとなるという確信を得た。

2024年度は、これまでの活動の継続に加えて、岡上地域の自然を中心とした写真を撮影して、四季を通じた岡上地域の魅力を紹介するWebサイトのコンテンツ作りも実施予定である。

大学生協で販売した柿のドライフルーツと柿のジャム



障がい者就労体験支援でのラベル切り取り作業

和光小学校の児童・保護者と協働で行った田植えと稲刈り

04

親子で楽しむふれあいタイム

現代人間学部
心理教育学科
准教授

代表教員
後藤 紀子

研究分野

幼児の音楽
幼児の表現

プロジェクトの概要

後藤ゼミ（保育表現演習）は、『わっこ』という名を冠して地域の親子向けに「親子ふれあいあそび」「パネルシアター」「影絵」「ブラックシアター」「ベルの演奏」などのパフォーマンスを行ってきた。

保育士・幼稚園教員を目指す学生にとっては、子どもの前で表現をするためには何が大切かを考えることが重要である。そのために、人形劇、パネルシアター、あそび歌などの演じる力をつけ、子どもたちの前で実践することによって、子どもたちが引き込まれていく様子を実際に感じ取り、演者としての自覚と成長を促す。

ゼミの取り組みではあるが、毎年参加者から好評を得ており、地域への貢献活動としても位置づいている。また、地域に住む親子に、本学に保育コースがあることを認知してもらう意義は大きい。

研究成果の概要

開催日時：2023年11月12日（日）
場　　所：和光大学ポプリホール鶴川
来場者数：30名
出　　演：和光大学心理教育学科保育コース　後藤ゼミ3年生、4年生『わっこ』14名

1，わっこのうた
2，親子でふれあいあそび「バスに乗ってゆられている」「おふねはぎっちらこ」
3，パネルシアター「とんでったバナナ」「どんなものができるかな」
4，ベル・トーンチャイム「さんぽ」「きらきら星」（会場参加者と一緒に演奏）
5，影絵「三匹のこぶた」
6，ブラックシアター「おもちゃのチャチャチャ」
7，スカーフ遊び（ブラックライト）「ふりふりスカーフちゃん」「上から下から」
8，わっこのうた

対象年齢は2歳から8歳だが、兄弟での参加もあったため、0～1歳児の参加もあった。学生たちは、それぞれの子どもたちに対し臨機応変な対応をし、途中マイクの音が出ないアクシデントがあったが、「わっこくん」への質問コーナーや4年生が手遊びをして時間をつないだ。結果、予定の時間を超えてしまったが、参加者からのアンケートは満足度が高かった。

演目として、子ども参加型の演目（親子遊び、パネルシアター、ベル、スカーフ）とじっくり観てもらう演目（影絵、ブラックシアター、わっこのうた）のバランスが良く、楽しい雰囲気で会を進めていくことができた。

大きなスカーフを使ってわらべうた「上から下から」

ブラックシアター「おもちゃのチャチャチャ」

「わっこのうた」全員そろって最初と最後に！

パネルシアター「どんなものができるかな」

05

〈公開セミナー〉
今、あらためて問う「集い遊ぶこと」の意味
～ムーブメント教育・療法を活かした地域子育て支援の実践から～

現代人間学部
人間科学科
教授
代表教員
大橋 さつき

研究分野
身体表現
ムーブメント教育・療法

プロジェクトの概要

本学では、20年以上前から運動遊びを原点とした発達支援法である「ムーブメント教育・療法」を基盤に、地域との連携による子育て支援の実践研究を展開してきた。学生たちの主体的な取り組みにより、インクルーシブな活動として発展していたが、コロナ禍で活動の休止や縮小が相次いだ。今回、久々の「和光大学親子ムーブメント教室」の開催を機に、「集い遊ぶこと」の価値を実感し、アフターコロナの子育て支援のあり方について、地域の方々と共に語り合う場を設定した。

第1部では、大橋と共に学生たちがリーダーを務め、クリエイティブな運動遊びのプログラムを実施した。第2部では、本学名誉教授の小林芳文の講義「コロナ禍で見えてきた子育て支援の課題にムーブメントができること」、川崎市認可保育所の保育士による報告「保育所におけるアフターコロナの子育て支援～ムーブメント法を活かした挑戦～」の後、参加者を交えた意見交換を行った。

研究成果の概要

開催日時：2023年11月3日（金・祝）
場　　所：和光大学コンベンションホール
来場者数：76名（親子で参加15組、45名含む）
出演者等：小林 芳文（和光大学名誉教授）／大橋さつき、永田ゆかり・小垣記代子（川崎市認可保育所保育士）

HPやチラシによる広報を開始したところ、早々に親子参加の申込が定員に達しニーズの高さを確認した。当日は、親子15組（0～8歳の子どもたち22人と）を中心に、一般参加者、学生、スタッフと大勢の人々が2時間近く笑顔で活動を楽しむことができた。遊具を活用した誘引力のある遊び環境の工夫や飽きさせないストーリー展開等を高く評価する感想が寄せられた。

特に今回は、嬉々とした表情を見せて全身で遊び続ける子どもたちの弾けるようなパワーに圧倒され、次第に癒され、優しい微笑みになって活気づいていく大人たちの変化が印象的であった。遊ぶ子どもが生み出す場がコロナ禍で固くなっていた大人たちの心身を包み込んで溶かしてくれたようだ。

一般申込には、地域子育て支援や障がい児支援、保育、教育の関係者の参加があった。第1部での実体験に第2部の講義や報告の内容が合わさり、「集い遊ぶこと」の意義や各現場の課題解決に向けて、前向きで活発な意見交換が実現した。アンケートには「貴重な機会に感謝」等のコメントが多く残されていた。以前を知る人たちからは、活気ある遊びの場の復活を喜ぶ声もあったが、新たな一歩を踏み出せたことに感謝申し上げたい。

06

町田市バイオエネルギーセンター施設紹介イベント「3Rまなびフェスタ」

表現学部
総合文化学科
講師
代表教員
角尾 宣信

研究分野
戦後日本文化史

プロジェクトの概要

2022年より毎年数回の開催を継続してきた本イベントは、町田市のリサイクル事業を中心的に担う施設・町田市バイオエネルギーセンターを舞台に、地域の人々にエコロジーや3Rについて身近に感じてもらう企画である。地域の様々な団体や有志市民、そして本学と桜美林大学の学生が協力し、リサイクルに関して親子で学べるブースを出展する。

学生たちは主に「施設見学」コーナーのスタンプラリーや、親子で楽しめる「あそびのひろば」を担当するが、創意工夫で来場者を楽しませる企画を考案し、運営する。一日の開催だが相当の数の来場者があるので、地域のエコロジー活動に大学として大きな貢献を果たすものであるだけでなく、学生たちにとってもエコロジーについて実践的に学ぶ場、また様々な世代の人々とともにイベント運営をする貴重な場ともなっている。そして他学科や他大学の学生たちとの交流、さらには有志で参加する卒業生たちとの交流の輪も広がりつつある。

研究成果の概要

開催日時：2023年7月8日（土）、9月17日（日）
場　　所：町田市バイオエネルギーセンター
来場者数：各回200～250名ほど
出演者等：和光大学学生および桜美林大学学生、角尾宣信、倉方雅行（和光大学 芸術学科 教授）

継続開催の成果もあり、本年度は各回とも親子連れを中心に200名以上の幅広い年齢層の方々が来場する盛会となった。

学生たちの交流や創意工夫も深まり、本年度はペットボトルのキャップで絵を作る「キャップアート」のワークショップも出展。大量に必要なキャップ集めに始まり、子どもでも気軽に動物などの絵が構成できるよう台紙を用意したり、色ごとのキャップを必要個数分セットにしたりと、丁寧な準備作業を学生自ら検討して行い、結果として大盛況のブースとなった。例年行っている「施設見学」コーナーでも、スタンプラリーの台紙デザインを刷新したり、景品の用意を行うなどの工夫を凝らし、また「あそびのひろば」でも、各学生が担当したいコーナーを効率的に回れるよう、また仕事負担が分散できるよう、事前のアンケート調査に基づく詳細なタイムテーブルを作成するなど、新しい試みに挑戦した。こうした学生たちの試行錯誤がイベント全体を盛り上げ、上述の来場者数の継続的増加につながったのである。

また、来年度からは和光大学と桜美林大学の学生たちでワークショップやイベントの運営を行う有志団体を結成する機運もあり、来年度の更なる発展が期待される。

2023/9/17 フライヤー

当日の様子（写真を一部加工しています）

07

アジア・フェスタ in WAKO 2023

経済経営学部
経済学科
教授

代表教員
加藤 巌

研究分野

開発経済学
国際経済学

プロジェクト所属メンバー

●岩本陽児（人間科学科 教授）
●バンバン・ルディアント（経営学科 教授）
●岡本有子（共同研究員）
●関根秀樹（共同研究員）

プロジェクトの概要

2003年以来、アジア・フェスタはアジア研究を行う本学の専任教員と非常勤講師が主体となり、多くの地域の人々を「アジア」を軸に有機的につなぎながら開催してきた。これまで、アジアの食文化や舞踊・音楽・武術の紹介、講演会や映画上映会、工芸品や写真の展示などを実施してきた。2020年にはコロナ禍により開催できなかったが、2021年はオンライン講座として再開した。すると、本学から離れた遠隔地の方々も多く参加することとなった。おかげで2021年と2022年は以前にも増して盛会となった。

2023年の講座は、「在日外国人と多様性を持つ社会」について考える機会となった。また、2023年は、前年の参加者アンケートで要望もあったことから、地域の方々に直接参加していただけるよう講座の一部をオンライン配信と対面の併用型にした。とくに最終日は各講師と直接話すことができる交流の場（食体験を含む）として懇談会を開催した。

本年も内外の素晴らしいゲストが参加した。また、学生らの支援もあり、本事業は本学の誇るべき地域貢献事業である。

研究成果の概要

アジア・フェスタ in WAKO 2023
開催日時：2023年10月9日（月・祝）～14日（土）
来場者数：136名（延べ数）
プログラムは以下のとおり（日付、講師名、講師紹介など）。

10/09　室橋裕和さん（ルポライター／在日外国人と日本社会）
10/10　アンジェロ・イシさん（武蔵大学教授／在日ブラジル人社会）
10/11　岡本有子さん（天台宗僧侶／ネパール伝統舞踊研究）＋
　　ピマラ・グルンさん（ネパール人ゲスト・教員）
10/12　バンバン・ルディアントさん（本学教授／多宗教の社会）＋
　　マスツリンさん（インドネシア人ゲスト・イスラム教）
　　ストリスノさん（インドネシア人ゲスト・キリスト教）
　　タティさん　（インドネシア人ゲスト・ヒンドゥー教）
　　アッピンさん　（インドネシア人ゲスト・仏教）
10/13　関根秀樹さん（本学非常勤講師／アジアの武術）＋
　　奥本徹さん＋仲間孝也さん（卒業生／護身術研究会師範）
10/14　岩本陽児さん（本学教授／岡上フィールドワーク）＋
　　後藤幸浩さん（本学非常勤講師／薩摩琵琶奏者）

本学とつながりが深い川崎市は、早くから外国人市民施策を推進し、全国に先駆けて「多文化共生社会推進指針」を策定するなど、国籍や民族、文化の違いを（地域の）財産として捉え、すべての人が互いに認め合う多文化共生社会の実現に取り組んできた。本学近隣の麻生区（岡上）でも多文化共生事業が実施されてきた。これにはアジア・フェスタに集う本学の教職員や留学生らが参加してきた。今回のアジア・フェスタでも岡上地域のフィールドワーク企画があった。

昨今は在日外国人の数が急速に増加してきた。地域の隣人が様々な文化的背景を持つといった事態も増えている。しかし、新型コロナ感染症の拡大以降は、多文化共生に関する取り組みが中止を余儀なくされてきた。こうした中、アジア・フェスタをオンライン講座と対面の併用型で実行したことは多文化共生事業を下支えしたといえる。今回のアジア・フェスタも多文化共生の問題を学ぶ地域の学習ニーズに応えるものになったと確信している。

なお、これまでアジア文化の紹介を地域の方々へ真摯に行ってきたことから、町田市教育委員会や川崎市国際交流協会、町田市文化・国際交流財団などから後援をいただいてきた。

08

トークイベント「まちまちトーク・クロッシング 2024」

経済経営学部
経営学科
教授

代表教員
平井 宏典

研究分野

経営学
産学連携実践論

プロジェクトの概要

本プロジェクトは、表現学部の長尾教授を発案者に地元の企業と大学の連携による企画として2018年度に立ち上がったものである。その後継プロジェクトとして、本取組は次の3点を目的としている。

①日常生活を
より文化的に豊かな場を創出する

②町田・相模原を中心とした
「武相エリア」の魅力を高める

③本プロジェクト自体を
実践的な学びの場とする

具体的には、連携企業である町田を本拠地とする株式会社キープ・ウィルダイニング（KWD）が運営するコ・ワーキングスペース「BUSO AGORA」を会場としたトークイベントを実施し、まちやカフェ、大学が交差する場所、住み慣れた町、訪れたい街、それぞれの歴史的背景やくらしの豊かさを語り合うことのできるイベントとする。イベントの企画立案は、本学経済経営学部の平井ゼミのメンバーが企業との連携によって担う。

研究成果の概要

第1回：2024年2月24日（土）18：00～20：00
「チューリッヒ ―まったく違う教育を味わう」
語り手：田代 広宣さん
　　（総務省 総合通信基盤局 移動通信課 課長補佐）
参加者：約30名

世界的な観光地として有名な街スイスのチューリッヒ。暮らしやすく学びにも適した環境と評されており、永世中立国であるスイスには平和なイメージを抱く人が多いだろう。しかし、実際は徴兵制度を設けていたり、銃器を装備した兵士が街中を歩いていたりする。

“強くならなければならなかった”スイスの国家戦略と知られざる実態について、講師が紐解き、参加者とともに語り合うことができた。

第2回：2024年3月9日（土）18：00～20：00
「東ティモール ―コーヒーと歩むアジアで最も若い国の未来」
語り手：大石 雅美さん
　　（特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン フェアトレード部 部長）
参加者：約30名

東ティモールは、ポルトガルの植民地支配からインドネシアによる併合、紛争を経て21世紀に独立を果たした。植民地時代から取り組んでいたコーヒー産業を武器に、独立直後の厳しい経済状況を乗り越え、コーヒーは今でも東ティモール輸出産業の大半を占めている。講師の大石さんは、見せかけのフェアトレードではなく、本当の意味で生産者にも“フェア”な交易を手伝い、小規模コーヒー生産者の収入向上を目指している。大石さんに、実際の東ティモールのコーヒー豆を持参していただき、淹れたてのコーヒーを堪能しながら、語り合い盛会に終わった。

企画運営を行った平井ゼミ9期生は、大学のキャンパスの中だけでは体験できないビジネスの楽しさと厳しさを学び、事前学習からプロジェクト終了まで一連の流れを通して大きく成長したように思う。単純な知識だけではなく、ビジネスマナーや責任感なども身についたと感じる。

写真｜デザインポワドバレ（谷森亮佑）

和光大学を通じて地域に貢献する

社会連携フォーラム

社会連携フォーラムは、和光大学の研究成果や人材などの提供を通して、地域に貢献することを目的に、地域連携研究センターの下に設置された機関です。現在、大学開放フォーラム、ジェンダーフォーラム、地域・流域共生フォーラムがあります。

01 大学開放フォーラム

和光大学の知的資産を広く地域社会に開放し、市民の方々に生涯学習の機会を提供することで、地域社会の知的活性化および文化の向上に寄与することを目的として設置されたフォーラムです。1995年にオープン・カレッジぱいでいあを開設し、多くの市民の方々の知的好奇心を満たしているほか、単発の講座や、地域と連携したイベント等を行っています。

【2023年度の主な活動】

- **オープン・カレッジ ぱいでいあ（生涯学習講座） 以下16講座を開講**
  楽しいトルコ語／韓国語アドバンストコース（更なる上達を目指すコース）／インド美術史入門（ヒンドゥー教美術）／英語で学ぶインド哲学入門／文字と書物／視覚とことば／アイヌのことば・文化・歴史／リコーダーを楽しむ1（初級）／リコーダーを楽しむ1（中級・上級）／クラシック音楽の楽しみ方―西洋音楽史入門1／透明水彩画入門1／旅支度の西洋美術史：フィレンツェ、ルネサンスのゆりかごを旅する／リコーダーを楽しむ2（初級）／リコーダーを楽しむ2（中級・上級）／クラシック音楽の楽しみ方―西洋音楽史入門2／透明水彩画入門2
- **レクチャーコンサート「ジャズの楽しみ方講座 第7弾　Long Yellow Road ～穐吉敏子の終わりのない旅～」**
  2024年2月21日（水）
- **地域連携講座「親子でふれあい歌遊び～クリスマス音楽会編～」**
  2023年12月17日（日）
- **2023年度 連続市民講座「環境問題と経済活動」全4回**
  2023年9月29日（金）「自然との共存の探求：環境学と生態学の視座から」
  2023年10月11日（水）「脱炭素の流れと今後の国際エネルギー情勢」
  2023年10月18日（水）「身近な環境問題を経済の視点から考える」
  2023年10月25日（水）「ボルネオ島の森の暮らしから『豊かさ』の多様性を考えてみる」
- **市民大学　和光大学コース「今さら聞けない「LGBTQ＋」ってナニ？ ―性の多様性とこころの支えを考える―」**
  2023年8月1日（火）、8月2日（水）
- **町田市共催講座「日本の喜劇をふり返る―敗戦後のその潮流をめぐって―」**
  2023年6月15日（木）、6月22日（木）、6月29日（木）
  ※町田市生涯学習センターとの共催

レクチャーコンサート

親子でふれあい歌遊び

町田市共催講座

02 ジェンダーフォーラム

日本で初めて「女性学」の講座を開いたジェンダー教育の草分け的存在である和光大学において、ジェンダーに関する情報発信、イベント企画、交流活動などを行うために設置されています。ジェンダーに関する講演会や研究会、展示なども企画しています。また、学生の居場所として学内にジェンダーフリースペースを設置しています。

【2023年度の主な活動】

- **「自著を語る―川本直氏講演『ジュリアン・バトラーの真実の生涯』」** 2024年1月19日（金）
  ※総合文化学科「セクシュアリティ・ジェンダー・テクスト」授業内
- **2023年度ジェンダーフォーラム卒論発表会** 2024年1月17日（水）
- **「LGBTQ＋とそうかもしれない学生のための就活・就労」セミナー** 2023年11月28日（火）
  ※キャリア支援室との共催
- **デートDV防止啓発講座「これってデートDV?」** 2023年11月16日（木）
  ※町田市男女平等推進センターとの共催
- **講演「子宮頸がんの予防に大切なこと」** 2023年11月1日（水）
  ※中外製薬株式会社、町田市との共催　※人間科学科「健康教育学」授業内
- **「地域・流域プログラム」「ジェンダー・スタディーズ・プログラム」合同履修説明会** 2023年4月10日（月）

卒論発表会

デートDV防止啓発講座「これってデートDV?」

講演「子宮頸がんの予防に大切なこと」

03 地域・流域共生フォーラム

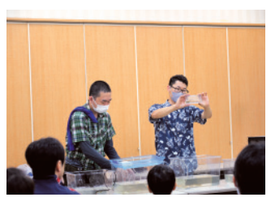
大学の地元である川崎市麻生区岡上地域や鶴見川流域を舞台にした環境保全活動などを行っています。活動は、学生が自主的に展開してきたものも多く、積極的にバックアップしています。また、地域の学校などと連携した生き物観察の企画なども実施し、「環境」という切り口で大学と地域を繋げる拠点として機能しています。なお、本フォーラムは、2008年度 文部科学省の教育GPに採択されたことから始まりました。

【2023年度の主な活動】

- **鶴見川などでの生物調査**
- **児童館などでの昆虫観察会**
- **和光鶴川小学校などでの環境学習支援**
- **岡上丸山特別緑地保全地区管理活動**
- **和光大学坂下「どんど焼き」協力** 2024年1月20日（土）
- **プロジェクトWILD（ワイルド）・プロジェクトWET（ウェット）エデュケーター講習会** 2023年12月25日（月）、26日（火）
- **チェーンソー＆刈払い機安全講習会** 2023年10月14日（土）
- **RACリーダー養成講座** 2023年8月22日（火）～24日（木）、30日（水）
- **寺子屋おかがみ実行委員会主催「おかがみ昼の自然観察会」学習支援** 2023年7月8日（土）
- **夏休みファミリー体験学習in鶴見川** 2023年7月1日（土）
  ※神奈川県横浜川崎治水事務所川崎治水センター、特定非営利活動法人 鶴見川流域ネットワーキングとの共催
- **都立六本木高校の授業一環として共同で生物調査** 2023年6月25日（日）
- **寺子屋おかがみ実行委員会主催「鶴見川流域の生きもの観察体験」学習支援** 2023年5月27日（土）
- **「地域・流域プログラム」「ジェンダー・スタディーズ・プログラム」合同履修説明会** 2023年4月10日（月）

RACリーダー養成講座

おかがみ昼の自然観察会


夏休みファミリー体験学習in鶴見川

さまざまな地域連携活動

和光大学地域連携研究センターでは、プロジェクト活動以外でも、自治体やコンソーシアムと連携し、市民活動や子ども向けの体験活動の企画なども行っています。

和光大学と周辺地域

和光大学の所在地は、登記上は東京都町田市ですが、大学の敷地内には、神奈川県川崎市との都県境があり、川崎市麻生区岡上、町田市金井ヶ丘に分かれています。

●川崎市麻生区岡上

麻生区は、川崎市の北西部に位置し、その中の岡上は、麻生区の飛び地になっています。岡上には、特別緑地保全地区「梨子ノ木緑地」や、都市型農業のモデルでもある営農団地があり、自然豊かな地域が残っています。また、川崎市無形民俗文化財に認定されている岡上川井田地区の「どんど焼き」には、和光大学も毎年参加しています。

●最寄りの施設

和光大学の最寄駅は小田急線鶴川駅（徒歩15分）です。鶴川駅前には、町田市の文化施設「和光大学ポプリホール鶴川」（和光大学のネーミングライツ）があり、文化活動が盛んに行われています。また、麻生区岡上地区唯一の川崎市立岡上小学校があり、連携交流を行っています。

岡上川井田地区のどんど焼き

岡上梨子ノ木緑地

和光大学ポプリホール鶴川

連携活動紹介

●川崎市麻生区との連携イベント

和光大学と川崎市麻生区で子ども連携事業を行っています。麻生区と和光大学の環境保全サークル『かわ道楽』と鶴見川流域ネットワーキングが主催となり、毎年夏に、小学生向けイベント「鶴見川流域の自然学習と生きもの観察会」を行い、好評を得ています。

●さがまちカレッジ

和光大学は、相模原・町田大学地域コンソーシアム（略称：さがまちコンソーシアム）の会員です。さがまちコンソーシアムとは、相模原市と町田市、そこを生活圏とする大学・NPO・企業・行政などが連携している組織です。このコンソーシアムで行う教育学習活動事業が「さがまちカレッジ」と呼ばれ、和光大学からも多くの市民講座を開講しています。

古代ギリシアの神話と星座

楽しく環境を学ぼう

ソックスパペットをつくろう

市民講座のほか、さがまちコンソーシアムでは、次のような活動を行っており、和光大学の学生も活動に参加しています。

さがまち 学生Club	相模原・町田地域の学生が地域の活性化など街づくりに繋がる活動を企画実施する学生主導型体験プロジェクトです。
さがまち バンバン	学生が相模原・町田の地域情報を取材し、映像作品の制作を通して地域の魅力の発見に取り組むプロジェクトです。学生の作品が受賞することもしばしば。
町田市 まこちゃん教室	町田市内に住むひとり親家庭などの子どもを対象とした学習教室で、大学生が勉強を教えたり、イベントを企画しています。

●寺子屋おかがみ（川崎市立岡上小学校）

川崎市教育委員会では、川崎市の各小学校を対象とした、地域ぐるみで子どもの教育・学習をサポートする「寺子屋」事業が行われています。麻生区の岡上小学校で行われている寺子屋事業が「寺子屋おかがみ」です。和光大学は、近隣小学校である岡上小学校の寺子屋の一員として、岡上小学校の子どもたち向けに、体験講座を開催しています。

寺小屋おかがみチラシ

玉ねぎ収穫体験

Tシャツアートイベント